



【特集】 かがみいしの おいしい “水” ができるまで

8月1日から7日までの1週間は「水の週間」です。町立第一小学校の4年生が、町に3つある浄水場の1つである「桜岡浄水場」を訪れました。上下水道課職員から説明を受け、普段自分たちが飲んでいる“水”がどのようにして作られるのかについて学びました。この機会に、身近な“水”について、一小児童の皆さんと一緒に学んでみましょう。

町の水道水は地下水

町の水道水は全て地下水によってまかなわれています。水源となる井戸は町内12箇所にあり、その深さは160m〜220mで、深井戸と呼ばれています。地下水を多く含んでいる層を帯水(たいすい)層といい、その帯水層から水中ポンプで水をくみ上げていきます。

水量、水質、水温が比較的安定した水資源となっておりますが、一定の時間に流れ込む水量は限られており、水に含まれる成分としては、特に鉄分が含まれているのが特徴です。

水をきれいにする仕組み

くみ上げられた水は、「着水井(ちやくすいせい)」や「混和槽(こんわそう)」という施設を通して、塩素やPAC(ポリ塩化アルミニウム)、鉄系凝集剤などの薬品を使って大きなゴミや汚れを取り除かれます。混和槽では、薬品がよく混ざるように水を攪拌

(かくはん)しています。

その後「ろ過装置(ろかそうち)」で、ろ過砂層を通過することで小さな汚れや濁り、余分な成分(鉄分、マンガン)を取り除かれます。

ろ過できれいになった水は「配水池(はいすいち)」(直径約25m、深さ3.5m)に溜められ、水質基準を満たした水道水を「配水ポンプ」で押し出すことによって各家庭に届けます。

その他の施設

浄水場には他にも様々な施設があります。ろ過で取れた汚れを水と汚泥に分離する「濃縮槽(のうしゆくそう)」。塩素やPACなどの薬品をタンクに管理する「薬品室」。各種計測器、ろ過装置の操作をする「電気室」。停電時も水を送れるようにしている「発電機」。井戸や水質、浄水場の機械などの状況を24時間監視している「中央監視盤(ちゆうおうかんしばん)」。これらの施設が全て稼働することで、安全・安心な水を供給することができています。



PAC(ポリ塩化アルミニウム)を使い、汚れで濁った水から汚れを分離させる実験を体験しました。容器に濁った水を入れ、PACを数滴入れて混ぜていくと、汚れが固まって下に沈みます。児童たちは、汚れが分離する様子に驚きながらも、楽しみながら学んでいました。

INTERVIEW



4年3組
大河原羽叶さん

水をきれいにするの大変さがよくわかりました。働いている人が大変にならないように、水を大切に使いたいです。



4年2組
根本 美徠さん

どうして砂の中を通過してきれいな水になるのかが不思議に思いました。自分たちが飲んでいる水について調べてよかったです。



4年1組
柿木 晴人くん

汚れはそのまま取ると思っていたので、薬品を使って汚れを取ることにはびっくりしました。水の大切さがよくわかりました。

水の週間

水に対する理解を深めるため、毎年8月1日から7日までの1週間が「水の週間」と定められています。

1日で1人が使う水の量

平成27年度の1年間、町内の各家庭や工場、会社などで使用されました。1日あたり1,324,642mの水が使用されました。1日あたりになると、約3,619m(小学校のプール約13杯分)の水が使用されたことになりました。

その中で、各家庭における水の使用量を見てみると、1日1人当たり約302リットル(2リットルのペットボトル約151本分)の水を使用しています。

節水に心がけて!

「蛇口をひねればミネラルウォーターが…」私たちの生活になくはならない水にも限りがあります。地下水位の低下や湧水量の減少など、豊かな地下水の維持が危ぶまれます。

る事態も考えられます。将来にわたって私たちが地下水の恩恵を受けていくためには、普段から水を大切に使うことが節水へとつながります。

漏水に注意しましょう

水道をたくさん使った記憶がないのに水道料金がいつもより高いと思ったら漏水の疑いがあります。そんな時は、家にある水道メーターで漏水していないか確認してみましょう。

漏水の確認の仕方

まず、家にある水道を、全てしっかり閉めてください。次に水道メーターの「パイロット」が回転しているかを1分間程ご確認ください。パイロットが動いていたら漏水の可能性がありますので、町指定給水工事業業者に相談下さい。

▼問い合わせ先

上下水道課
62-2348-2119



① 中央の大きなタンクが「ろ過装置」です
② 「中央監視盤」の説明を真剣に聞く児童たち
③ 敷地の中央には大きな「配水池」があります